

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				令和	1	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費		
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室		
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町 <input type="checkbox"/> その他	
	項	1	総務管理費			
	目	21	若桜鉄道対策費	計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民、観光客等					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 安全で安定した若桜鉄道の運行を維持するとともに、鉄道利用客の利便性の向上を図る。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務。車両の改修。					
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車両の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施する。駅舎等については、町で直接管理する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	鉄道事業法

### 3 活動指標、成果指標

活動指標	A	人	事業の手段を図るものさし 輸送人員			
	B					
	C					
	D					
成果指標	E	千円	事業の成果、到達点を図るものさし 若桜鉄道(株)経営収支			
	F					
	G					
	H					

### 4 コスト

区分	単位	H28年度	H29年度	H30年度		R1年度		R2年度	
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
活動指標	A	310,971	325,597	326,000	350,881	361,000	353,930	370,000	
	B								
	C								
	D								
成果指標	E	9,349	12,804	7,500	268	120	87	146	
	F								
	G								
	H								
トータルコスト	千円	149,018	216,699	418,014	253,006	189,109	359,109	161,148	
担当職員数	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
職員人件費	千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	
事業費	千円	141,018	208,699	410,014	245,006	181,109	351,109	153,148	
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	30,355	54,968	75,985	42,138	47,547	114,350	17,460
	県支出金(交付金・補助金)	千円	16,152	16,782	17,128	15,014	17,128	18,273	23,400
	地方債(借入金)	千円	53,400	91,200	175,200	113,000	79,600	137,100	76,500
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	39,850	43,826	139,677	72,665	33,969	79,809	34,237
	一般財源(単町費)	千円	1,261	1,923	2,024	2,189	2,122	1,577	1,551

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)	令和	1	年度
実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)		
	<p>・公有民営化方式により八頭町・若桜町が軌道や車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。</p> <p>・昭和62年に購入した車両3両の大規模改修に併せて、平成29年度から観光列車へのリニューアル化に着手した。平成30年3月に「昭和号」、平成31年3月に「八頭号」、令和2年3月には「若桜号」の観光車両を導入し、鉄道の旅の新たな魅力発信とこれまで作成したグッズや観光列車を活用したツアー商品を造成し、観光誘客に寄与した。また、八東駅に行き違い施設を整備(R2.3.14供用開始)し、一日10往復から15往復に増便させることにより利用者の利便性を向上させることができた。</p> <p>・若桜鉄道を利用して通学する高校生の通学定期購入金額の1/2を助成し、通学旅客並びに運輸収入の確保に努めた。</p>		
実施活動内容・成果(到達点)	成果(具体的に)		
	<p>・平成28年4月から八頭町・若桜町が車両を町有化したことや、高校生への通学定期半額助成の効果もあり、若桜鉄道の令和元年度決算は4期連続で黒字となった。また、平成30年3月から順次導入した観光列車のツアーも定着化し、輸送人員が増加するなどその効果が持続している。</p>		

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	通学や通勤、また、高齢者の方など生活における移動手段の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の維持・確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	八頭町は、第三種鉄道事業者として鉄道の安全輸送を確保する必要があるため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	鉄道施設整備の施工業者は一般の公共工事に比べて限定されるため、コストが割高となる傾向にあるが、委託先の若桜鉄道(株)においては修繕・工事の発注に際して指名競争を実施しており、価格の公平性を確保している。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域住民の生活交通を確保するとともに、観光振興による地域活性化を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	20	20	①成果が上がっている	鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営黒字の維持を確保することができたが、今後も若桜鉄道の乗車人員や旅客収入を維持していくためには一層の営業努力が必要であるため、収入状況には引き続き注視が必要である。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79 評価点による判定  2	鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営黒字の維持を確保することができた。観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」の導入の成果もあって、若桜鉄道の乗車人員や旅客収入の確保には一定の成果が得られているものの、引き続き安定した収入と輸送人員を確保するため、観光需要を注視しつつツアー商品の造成やグッズ開発などの取組を進める。また、一層の若桜鉄道の営業努力を推進させるとともに、沿線団体との協力体制の構築などを通じた地域活性化への機運を高めていく。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	<p>大量輸送や定時運行が可能な若桜鉄道は、地域において重要な公共交通機関であるとともに、歴史のある駅舎などの関連施設は地域資源や観光資源として貴重な価値を有し、町外から人を呼び込むツールとして重要性が増してきたところである。一方、鉄道の運行や施設管理には莫大な費用が掛かるため、国や県の補助金、過疎対策事業債が活用できるとはいえ、町の実質的な負担も少くないことには留意が必要である。通勤・通学利用の減少などを背景とした若桜鉄道(株)の経営悪化を改善させるため、これまで、車両の町有化や高校生に対する通学定期助成などを実施し、若桜鉄道(株)の営業収益は改善された。また、観光事業において、各種イベントの実施や広域観光ルート化や周辺観光施設とのマッチングなどの取組を展開するとともに、観光列車の導入による新たなツアー事業も開始され、若桜鉄道(株)の経営収支は安定しつつある。今後、3台の観光列車や八東駅行き違い施設を活用した収入の確保・利便性の向上が期待される場所であるが、安定的で持続的な鉄道運営となるよう、若桜鉄道(株)に対する営業努力・経営改善の要請を含め、効率的・効果的な事業実施に一層努めていただきたい。</p>
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	<p>事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所</p> <p>平成28年度から車両を町有化したことや高校生の通学定期半額助成などの効果により、若桜鉄道の収支は安定しつつあるものの、生活交通としての利用者は依然として減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の影響下における利用者確保のための取組を展開するとともに、新たな魅力を創出し、輸送人員と運賃収入を確保していく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下において、観光車両を軸とした新たな観光商品の造成やツアーの実施に取り組むとともに、沿線団体との連携のもと、観光列車を活用した事業内容に磨き上げをかける。</p>